

(大島郡住用村大字城字池平)

位置と環境

遺跡の大字城字池平1135番地は、通称「サモト」といわれ遺跡名が付けられた。

遺跡は住用村の北部にあたり、山手側から住用湾に流れ込む金久田川で発達した標高8～10mの古砂丘上に立地している。古砂丘の海手側は湿地帯となりさらに海岸は新砂丘になっている。

調査の経緯

調査は、住用村教育委員会が1983・1984年において熊本大学に依頼した。その結果、6軒の竪穴住居跡や集石遺構1基を発見した。

その後、本教育委員会は、遺跡を重要遺跡として残すために調査主体となり鹿児島県教育委員会の協力を得て、平成4年に確認調査を実施した。

遺構と遺物

層序は第1層から第4層あり、第2層が包含層である。第1層は黒茶褐色砂層で耕作土、第2層が茶褐色砂層、第3層が灰白色砂層、第4層が基盤層の砂礫層である。

遺構は、熊本大学が2回にわたり調査した中央部の所に6軒の竪穴住居跡が検出している。住居跡の形態は、場所が砂丘のためか竪穴壁に礫を廻らしさらに数段積み上げた石囲式の竪穴住居跡が中心であるが石囲でないものも1軒ある。

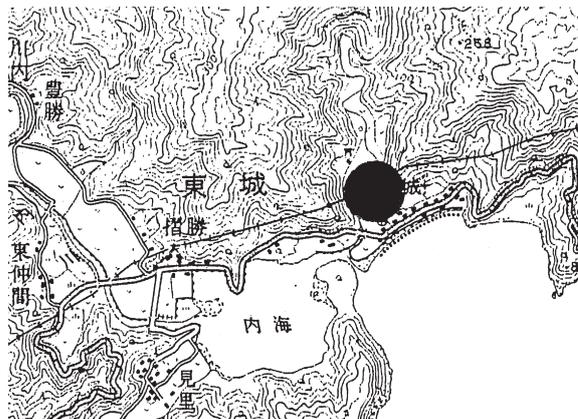
平成4年度では4.5×5.5mの大型石囲竪穴住居跡と集石遺構が検出している。

遺物は、縄文後期の集石遺構に面縄東洞式と竪穴住居跡に縄文晩期の宇宿上層式土器を中心に出土している。

石器は磨製石斧、打製石斧、磨石、石皿のほか楡形石製品が出土している。この楡形石製品は、龍郷町の手広遺跡や和泊町の小手野遺跡に出土しているが性格は不明である。この石器は、縄文晩期に見られるもので南島系石器が考えられる。

特徴

古砂丘に立地した縄文晩期の石囲式竪穴住居跡群が発見されている。そして、楡形石器が出土したこ



第1図 サモト遺跡の位置

とである。

資料の所在

出土遺物は、住用村教育委員会に保管されている。

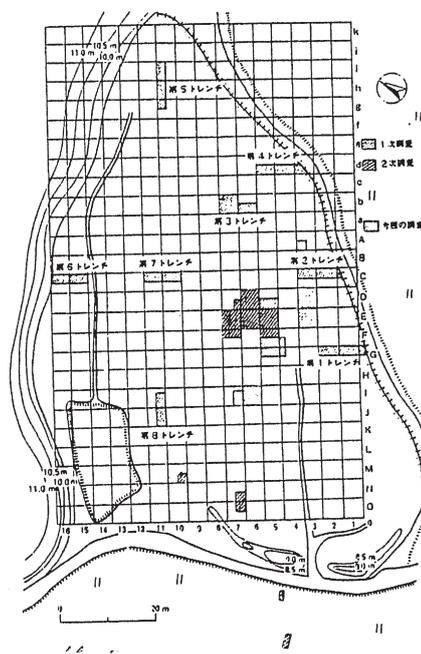
参考文献

住用村教育委員会1983「サモト遺跡(1)」『住用村文化財調査報告書』1

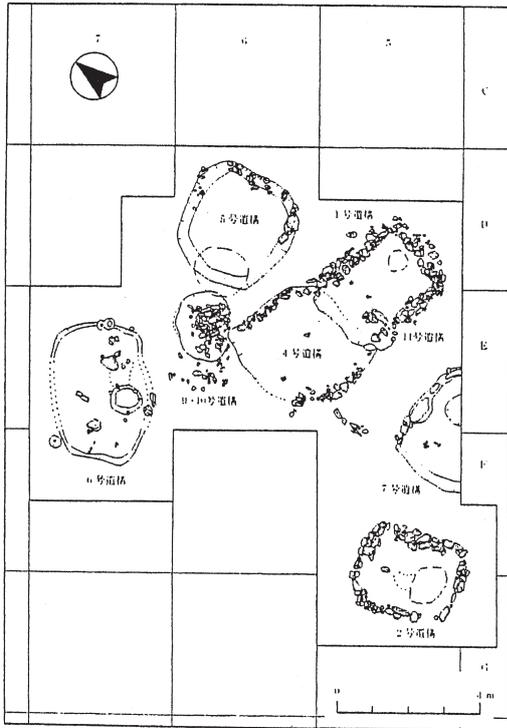
住用村教育委員会1984「サモト遺跡(2)」『住用村文化財調査報告書』2

住用村教育委員会1993「サモト遺跡」『住用村埋蔵文化財発掘調査報告書』3

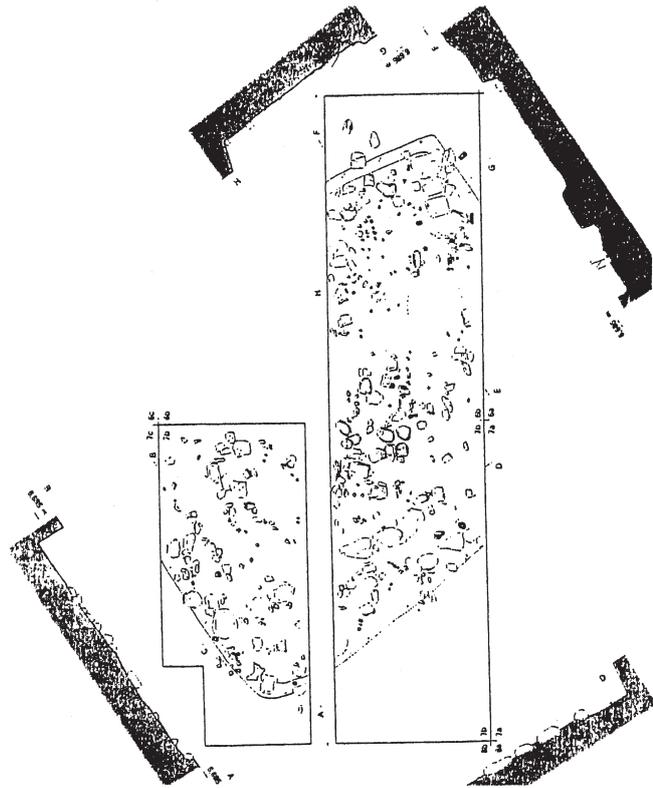
(彌榮久志)



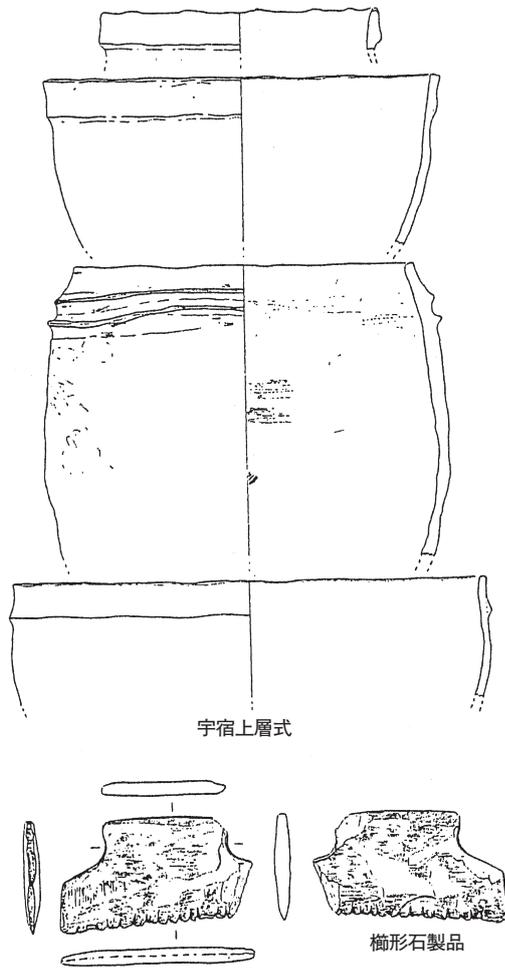
第2図 サモト遺跡のグリッドとトレンチ配置



第3図 遺構配置

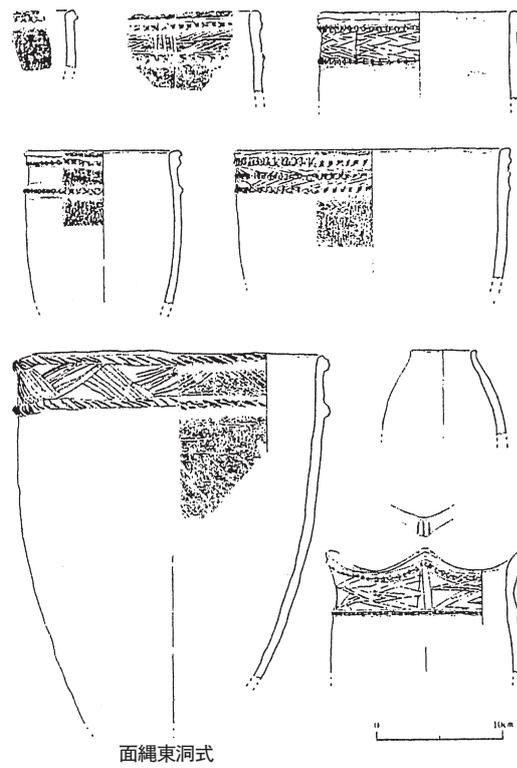


第4図 竪穴住居跡



宇宿上層式

楕形石製品



面縄束洞式

第5図 サモト遺跡の出土遺物